

第31回オリンピックがブラジル；リオデジャネイロで開催され、神奈川から矢澤 航君（デサント）、松下祐樹君（ミズノ）、長谷川大悟君（日立 ICT）、松永大介君（東洋大学）の4名が出場し健闘しました。

## 「リオ五輪に参加して」

（株）デサント 矢澤 航

今年の夏は、私にとって特別な時間を過ごすことが出来ました。

全日中優勝の頃から10年間、漠然と夢見ていた舞台に遂に立つことができた達成感、私の財産となりました。日の丸を背負うことへの責任感はもちろんのこと、多くの日本国民の期待を背負って臨む試合は、重圧を感じることもありましたが、今後の競技生活に生きる経験の一つともなりました。試合当日が近付くにつれて、今までの競技生活のことが頭をよぎり、本当に多くの人の支えが今日に繋がっていることを実感しました。

この「繋がり」をこれからも自身の財産として、強みとして、4年後への原動力としていきたいと思えます。まだまだ未熟な競技者でありますので、皆様からの叱咤激励を今後の糧にさせていただき、世界最高峰の舞台へとチーム神奈川の一員として羽ばたいていきたいと思えます。

今後も皆様の期待に応えられますよう、一層の努力をして競技力、人間力共に向上させていきます。



## 「リオデジャネイロオリンピックに参加して」 日立 ICT 長谷川 大悟

リオデジャネイロオリンピックに三段跳の日本代表として出場させていただきました長谷川大悟です。日頃より、たくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございます。陸上競技を始めたころは、自分がオリンピック選手になるとは、到底予想もできませんでしたが、競技を続けていく中で、徐々に、それが目標に変わりました。本当に多くのご声援とサポートに応えたい一心で、今年、念願の出場を果たすことができ、改めて、まわりの方々の支えの大きさを実感致しました。

オリンピックでは、決勝進出と日本記録更新を目標とし、1本1本感謝の気持ちを込めて挑みました。結果は、16m17の記録で予選敗退に終わってしまい、悔しく残念ではありますが、初の大舞台での経験で得たことは多く、必ず今後の競技や人生に活かしたいと思います。次なる東京オリンピックでは、今回以上の結果を残すため、気を緩めず精進します。今後も、夢や希望を共有できるような選手でいられるよう全力を尽くしますので、ご声援宜しくお願い致します。



松下 祐樹（ミズノ）



松永 大介（東洋大学）

## ◎ 今年度開催された全国大会や国体に参加して入賞された方々からメッセージをいただきました。

### ○ 全中 400m 7位 横浜市立寺尾中学校 新上 健太君

私は2年生の冬に参加をした関東合宿から本格的に全国制覇を目指して活動してきました。シーズンが始まってからは、すべての大会が全国大会への通過点と常に意識して出場してきましたが、関東大会では2位という悔しい結果を残してしまいました。切り替えて反省を生かし挑んだ全国大会本番も7位という悔しい結果でした。中学校では手にすることができなかった日本一を手に入れるため、高校では中学以上に頑張っていきたいです。



### ○ 全中 800m 2位 藤沢市立片瀬中学校 クレイ アーロン 電波君



僕は、全中で八百メートルと千五百メートルに出場しました。千五百メートルでは、入賞できませんでしたが、八百メートルではできました。

自分は、全中での目標がありました。それは、上位で入賞することでした。目標を達成するために全中まで沢山練習を積み重ねて努力して来ました。その目標は、全中の八百メートルで達成ができて、本当にうれしかったです。この良い結果を取れたのは、自分一人の力だけではなく、コーチの方々の指導始めチームメイト、沢山の方からの応援や支えがあったからです。

自分は、努力をすれば絶対に結果につながると信じて、これからも陸上競技を楽しみたいです。

### ○ 全中 110mH 5位 横浜市立あかね台中学校 森木 龍弥君

全国中学校陸上競技大会でベストをつくしての五位入賞。私にとって、この結果は単純に悔しいものでした。この三年間、私は最高峰の舞台で頂点に立つことを目標にしてきました。だからこそ、今回の結果には、満足していません。今までの練習・生活での、取り組みや意識の甘さが、でてしまったのだと思います。

この全国大会が、高校のインターハイにつながる、良い経過になったと思います。この経験を生かして、次こそは、最高峰の舞台で頂点に立ちたいです。



### ○ 全中 100m 7位 横浜市立西谷中学校 三村 香菜実さん



「全国制覇」それが私の目標でした。私は100m、200m、4×100mリレーの3種目で全国大会に出場しました。100mとリレーに集中するために、200mを棄権。けれど、結果は100m7位、リレーは準決勝敗退。どちらも実力を発揮出来ずに終わってしまいました。今回の大会を通して、自分の弱さを改めて知ることが出来ました。あの時の悔しさを絶対に忘れません。そして高校では、日本一になります。

### ○ 全中 1500m 4位 横浜市立中川西中学校 滑川 由記さん

私は2年で全国大会に出場し、3年では表彰台を夢見て練習に励みました。

3年の春の大会以降はタイムが伸びず努力を否定されたような気持ちでした。そんなときは、仲間や先生、家族が応援し見守ってくれました。

やっとつかんだ全国大会では狙っていた800mでまさかの準決勝敗退。想定してなかった段階での負けに気持ちを立て直すことが難しかったです。1500mは強敵揃いでランキングも悪い自分にはじめから勝ち目はないと思っていました。しかし、それまでの支えてくださった方や自分の努力を思い出し、タイムを気にせず最後に楽しんで試合にでた結果、予想以上の結果に終わりました。

2回の全国大会で、「楽しむこと」「あきらめないこと」の大切さを学びました。私を成長させてくれた陸上と全ての人に感謝したいです。



○ 国体 走幅跳 優勝 (全中 3位) 南足柄市立足柄台中学校 藤山 有希さん

初めて岩手国体の少年女子 B 走り幅跳びに出場し、6m20cmの自己新記録で優勝しました。自分が今まで目標としてきた池田久美子さんの持つ中学記録の6m19cmを破る事ができたので、中学生での陸上競技が悔いなく終われ、嬉しく思っています。

今回の国体で、自分をサポートしてくださった跳躍の先生が、「緊張しなくて良い、この大会はスポーツのお祭りみたいな大会だから楽しく挑みなさい。」と、励ましてくださったので、今回は安心して競技に臨め、いつも通りのジャンプをすることができました。

冬期練習でしっかり体力をつけて、来シーズンは高校生として、最初の大会から良い結果を出し、インターハイへ1年生から出場したいと思います。そして、高校新記録を目指して、常に練習でも高い意識を持ち、来年も愛媛国体へ出場するという目標を持って頑張りたいです。

○ インターハイ 800m 8位 神奈川県立希望が丘高等学校 薄田 健太郎君



私の全国挑戦は岡山インターハイが初めてでした。予選も準決勝も厳しい組でしたがプラスで通過しました。終わってみると速い組だったことが幸いして決勝進出できたように思います。

決勝では最高のレースをしようと臨みましたが予選準決勝の疲労が響き、5位と僅差の8位となりました。しかし積極的に前を走るレースができたので悔いはなくすっきりした気持ちで表彰台に上げられました。ここまで支えてくれた方々に感謝しています。

○ インターハイ・国体 棒高跳 優勝 神奈川県立荏田高等学校 江島 雅紀君

私の今年の目標は「高校記録を樹立して三冠を達成する」でした。

5月に川崎の等々力競技場で行われたセイコーゴールデングランプリ陸上2016では昨年の世界陸上選手権金メダリストのバーバー選手をはじめ、シニアのトップ選手と試合をしました。とても緊張しましたが、地元開催の大会ということもあり会場に足を運んでくださったみなさんの応援が力になりました。

結果は従来高校記録を1cm上回る5m42cmを跳び、5位入賞。9年ぶりに高校記録を更新しました。

そして、勝負の夏。ポーランドで行われたU20世界陸上選手権では日本代表として試合に臨み6位入賞を果たしました。帰国して間もなく、岡山県を舞台に全国高等学校総合体育大会が開催されました。

初日の予選を勝ち抜き、2日目に行われた決勝では自らの高校記録を1cm上回る5m43cmを跳び優勝しました。昨年のこの大会では優勝候補とし、取り上げていただいていたのですが結果は11位と苦い思い出となりました。しかし、過去の失敗があったからこそ今の自分があるのだと思います。

「周りの目は気にせず、楽しく跳ぼう。そうすれば、自然と記録は付いてくる。」本当に言葉通りでした。以降、10月に行われた国民体育大会では自己記録を3cm上回る高校記録を更新して優勝。

日本ジュニア選手権では5m40cmを跳び優勝。目標としていた、三冠を達成できました。

環境、そして指導して下さるコーチ、家族に感謝してこれからも日々精進していきます。今後も応援よろしくお願いたします。



○ インターハイ 走幅跳 5位 川崎市立橘高等学校 真角 勇也君

私は、高校生活の中で多くの時間を陸上競技に懸けてきました。目標であったインターハイでは今まで経験したことのない充実した時間を過ごすことができました。それは、友人や先生方、家族に支えられ、周囲の環境に恵まれた中で費やした日々の成果であると思います。おそらくこの結果は、自分を成長させる一つの大きな経験でした。今後は、この経験を超越するようなワクワクを見つけられるようにさらなる挑戦を続けていきたいと思っています。

○ インターハイ 三段跳 3位 (国体 7位) 法政大学第二高等学校 長塚 柁真君

今年度のインターハイ、国体では自己ベストを更新して優勝することを目標にしていたのですが、どちらも達成することが出来ませんでした。どちらの大会も悔しさが残る大会になりましたが2つの全国大会で入賞できたことは素直に嬉しいです。しかし15m台が安定しないなどまだまだ力不足な部分があるのでさらに力をつけて来年度を迎えたいと思います。大学でも全国大会の決勝で戦えるように日々努力していきます。3年間支えて下さった方々に感謝しています。



○ インターハイ 八種競技 4位 川崎市立橘高等学校 田中 廉人君

私はインターハイに出場し、優勝するために日々努力してきました。昨年は南関東大会の八種競技で7点という僅差でインターハイに出場することができず、自分の力の無さにとても悔しい思いをしました。しかし、それをきっかけにさらに練習に励みました。今までやってきたようにうまくいかず、新たな難しい知識や技術を求められる中で、先生方、先輩方、仲間、後輩、家族などたくさんの人に支えられ、辛いことも乗り越えていくことができました。まだまだ人としても競技者としても未熟ですが、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、大学でもさらなる高みを目指し、日本一になれるように頑張りたいと思います。

○ インターハイ 八種競技 8位 武相高等学校 原口 凜 君

私は中学校時代には1500mと4種競技を専門としておりましたが、特に競技成績が良い選手ではありませんでした。高校に入り、八種競技を専門として、目標を定めてトレーニングと専門練習をしっかりと行って来た結果、今年度、インターハイに出場し、8位に入賞することが出来ました。今後は来年の山形インターハイで一番高い表彰台に立つための努力を継続し、夢を叶えたいと思っています。

○ インターハイ・国体 400mH 2位 川崎市立橘高等学校 小山 佳奈さん

私は高校1年の秋から400mHに取り組んできました。高校2年のインターハイで6位に入賞することができ、来年のインターハイでは優勝したいという強い想いを抱きました。それからは自分の弱点や課題を見つけ、それを解消するために徹底的に練習を積み重ねてきました。そして臨んだ今年のインターハイでしたが、決勝では自分の走りができず、結果は2位でした。ゴールした直後は頭が真っ白になり何も考えることができないくらいショックでした。今になっても、なぜ優勝できなかったのかはわかりませんが、この悔しさを絶対に忘れず、大学では全国タイトルをとり、東京オリンピックに出場することを目標にして頑張っていきたいと思っています。

○ インターハイ 400mH 8位 神奈川県立川和高等学校 徳原 京香さん

今回初めてインターハイに出場して、たくさんの刺激をもらいました。来年は表彰台のもっと高い所にいたいので、歩数の改善やハードリングなど冬の間たくさん練習して技術を上げていきたいです。来年で高校生活ラストのシーズンになるので、悔いのないよう過程を大切に頑張りたいと思います。

○ インターハイ 走幅跳 2位 神奈川県立山北高等学校 古谷 夢華さん



全国高等学校総合体育大会では、5M98cmを跳び準優勝することができましたが、まだ目標としている6Mは跳べていません。だからまずは6Mを跳べるように今後も努力していきます。神奈川には沢山の強い選手がいるので刺激し合い、頑張っていきます。今まで沢山の応援、サポート、指導があったからこそ、このような結果ができたと思っています。本当にありがとうございました。

○ 国体 100m 8位 東海大学 岩崎 浩太郎君

今回の岩手国体は東北での開催だったので気温が低い中でのレースでしたが、コーチ陣のサポートのおかげでいい状態でレースに臨むことができました。個人の100mはなんとか10秒5台を3本走れて入賞することができましたし、上位入賞を狙っていたリレーは6位と少し悔しい順位でしたが予選のバトンミス決勝のオーダー変更があった中チームでしっかり修正できた結果だと思っています。

この国体での経験を来シーズンを向けて生かして行きたいです。

○ 国体 走高跳 2位 日立ICT 高張 広海君

今大会で5年連続神奈川県代表として選んでいただきましたが、今年はとても強力な布陣だったと感じています。社会人になりチームとして日本一を目指せるのは国体だけであり、1点でも多く神奈川へという思いがあるため、2位であったことに非常に悔しさを感じています。国体だけではなく、それ以上のステップでも負けない選手になれるように今後も精進していきたいと思います。

○ 国体 砲丸投 3位 平塚学園高等学校 大迫 晴香さん

10月7日から11日まで岩手県で行われた国民体育大会において、少女女子B砲丸投で3位に入賞することが出来ました。記録は12m78cmで、自己ベストに迫る記録でした。この大会で初めて全国大会での表彰台にのぼることができた嬉しい気持ちと同時に優勝できなかった悔しさを感じました。

この結果に満足せず、夏のインターハイに向けて日々の練習を頑張っていきます。最後に、私を支えてくださっている方々への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



○ 国体 やり投 6位 大坂成蹊大学 山内 愛さん

今回、岩手国体は6位入賞という結果で終わりました。自分自身もっと上の順位を狙っていたのもあって悔しい思いがあります。しかし、神奈川県の方のサポートのおかげで、良い意味でとても楽しく試合することができました。また、2017年も神奈川県代表選手として選んで貰えるように、これからもしっかり頑張っていきます。ありがとうございました。

○ 全国定通大会 400m・800m 2位 日々輝学園高等学校 片山 豪人君



私は全国高等学校定時制通信制陸上競技大会で400mと800mの両方で準優勝をする事が出来ました。今大会を通して、例え恵まれた環境でなくても自分なりの練習方法を見出し優秀な成績を取っている人の姿を見て、大事な陸上競技を誰よりも好きになりそして練習を楽しむ事だと学びました。それと同時に、優勝に届かなかった自分に足りなかった物を教わった気がします。これからの競技人生を誰よりも楽しみ、さらなる大舞台で活躍できるよう努力していきます。

○ 全国定通大会 5000m 2位・3000mSC 3位 大谷学園秀英高等学校 佐野 大志君

初めて全国大会に出場し、5000mで2位、3000mSCで3位入賞という結果を残すことができました。3000mSC決勝で足を負傷してしまい、5000m予選は棄権しようと気弱になりました。でも、今大会に出場できなかった人たちのためにも、自分の限界に挑戦してみようという気持ちでレースに臨めたのが良かったです。来年も全国大会に出場し、絶対に優勝するという気持ちを持ち続けて練習していきたいです。



○ 全国定通大会 円盤投 3位 神奈川県立向の岡工業高等学校定時制 秋葉 宥行君



私は高校三年の時、全国大会で砲丸投三位、円盤投十一位という結果でした。円盤投では悔しい思いをし、砲丸投ではあと一步自己新記録に届かずの結果でした。この思いをバネに冬の練習や他校との合同練習で精一杯努力し、陸上の記録会などで結果を出してきました。高校四年最後の大会では、悔いのないように全国大会に臨みました。結果は、砲丸投は九位、円盤投は三位という結果になり、残念ながら有終の美を飾ることはできませんでしたが、忍耐力など多くのことを学びました。ここまで頑張ってきたのも顧問の先生や部員のアドバイス、応援のおかげだと思っています。4月からは、社会人になりますが陸上競技部で学んだことを糧に活躍したいです。

○ 全国選抜大会 2000mSC 1位 白鷗女子高等学校 西山 未奈美さん

この度、私は全国高等学校陸上競技選抜大会の2000m障害で優勝することができました。昨年は7位という結果で悔しい思いをしたので、今年は上位を狙って大会に臨みました。夏には自分の限界を超えるという目標を掲げ、苦しい時に粘れるよう自分を追い込む練習を重ねてきました。それが今回の結果に繋がったのではないかと思います。

今後は、この結果に満足せず、先生、家族をはじめ支えて下さっている方々への感謝の気持ちを常に持って練習に励み、自分の走りをさらに高めていきます。



○ 全国選抜大会 2000mSC 2位 神奈川県立逗子高等学校 宮川 瑞恵さん



全国選抜大会2位をとれたのは顧問の先生のおかげです。高校から陸上を始め、才能もなく、本当に遅かった私を顧問の先生は見捨てず一対一で話し、信じることの大切さや諦めなければ必ず力になることを教えてくれました。必ず速くなって恩返しをしたいという気持ちで毎日練習に励んできました。そしてこのような記録を出せてとてもうれしく、また私ならどんな困難も努力で乗り越えられるという自信にもつながりました。

◎第71回国民体育大会（2016希望郷いわて国体）

2016（平成28）年10月7日（金）～11日（火）

北上市・北上総合運動公園 北上陸上競技場

神奈川県選手団 天皇杯 102点 第5位 皇后杯 46点 第9位

男子競技得点	女子競技得点	参加点	天皇杯総合得点	天皇杯順位
56点	36点	10点	102点	5位
	女子競技得点	参加点	皇后杯総合得点	皇后杯順位
	36点	10点	46点	9位

順位	男女総合（天皇杯）		順位	女子総合（皇后杯）	
第1位	東京	133	第1位	大阪	87
第2位	大阪	114.5	第2位	東京	72
第3位	埼玉	103.5	第3位	埼玉	62.5
第4位	京都	102.5	第4位	京都	57
<b>第5位</b>	<b>神奈川</b>	<b>102</b>	第5位	千葉	51.5
第6位	千葉	100.5	第6位	長野	50.5
第7位	兵庫	99	第7位	兵庫	49
第8位	愛知	92.5	第8位	宮城	48
			<b>第9位</b>	<b>神奈川</b>	<b>46</b>



◎ 新しく委員長になられた方々を紹介します。

総務委員長に就任して

総務委員長 齋藤 裕昭



総務委員長に就任して1年半になります。長年積み重ねてこられた総務委員会の皆さま方の活動内容を継承しつつ、よりよい組織運営が行われるよう日々取り組んでおります。

総務委員会は、総務部、広報部、医事部、女性部の4つの部会で構成されています。それぞれの部会は、業務内容や競技運営を正確かつ確実に機能できるように事前の準備に万全を期し、効率的な活動を目指しています。総務部は他の各専門委員会と連携を密にしながら、県陸協諸会議が円滑に運営できるよう準備したり、議事録の整理保存や全体の調整事務を行ったりしています。主な業務は各種大会（県記録会、ゴールデンランプリ、県選手権、小学生全国大会、国体選考会、ジュニアオリンピック）の諸準備や年間反省会、登録業務説明会等多岐に渡っております。広報部は、平成25年に創刊以来、今回の7号まで年間6月、12月の2回のペースで発行しています。構成内容は、多くの皆さま方に親しまれ、また愛されるよう充実した内容を念頭に置きながら取り組んでいます。また、HPの更新業務を行っています。ぜひ、HPをご覧ください。医事部は、不測の事態に備え現在2名の医師により万全の体制で取り組んでいます。医師の立場を最大限に活かした確かな判断力・行動力は私たちに安心感を与えてくれます。女性部は、今年で発足15年が経過しました。女性指導者・女性審判員・選手対象の講習会や研修会を毎年開催し、女性部活動の普及発展に寄与している部署です。16年目に入る本年度も先月11月に講習会・総会を開催し無事に終了いたしました。このように、総務委員会の活動は、広範囲に渡り業務を推進しています。これからも皆さま方のお力添えを賜りながら県陸協発展のために共に歩んで参りたいと思います。

## 財務委員長に就任して

財務委員長 清水 明



財務委員長に就任して任期の半ばが過ぎてしまいましたが、紙面を通じてごあいさつ申し上げます。平成25年4月に本陸協が一般財団法人として認可されて3年が経過しました。

法人化は①今まで以上に透明性を持った基本財産の維持管理及び運用財産の管理が可能になる。②活動内容を広報することが求められ、そのことにより広く社会の認知を受けることが可能となり、社会的信用が増し、本協会が目的とする陸上競技の普及、強化発展のための活動の幅が広がり、より安定した協会運営を可能にするものです。

財務の透明性に関しては今まででも専門委員会の活動を核として、健全な運営に努めてきましたが、法人化後はより厳格な会計処理が求められることから、会計事務所の指導、助言のもと予算に基づいた執行に努めていきます。より効率的な予算立て、その執行が求められていることは言うまでもありません。従来から普及と強化を車の両輪として進めてきましたが、限りある財源で運営する本協会の今後については楽観できるものではありません。短期的には歴史に学ぶでもなく、出るを押さえる。つまり出費を少なくする努力をする。営利団体ではないので収入を増やすことは厳しいものがあります。

しかし、支出を抑えることは活動の停滞を招く恐れがあります。そこで中長期的な展望が求められており、そのための活動を始めて参ります。あわせて、熱心に活動に取り組んでいただいている会員の皆さんへの「思いやり予算」についても知恵をだしたいと考えています。

## ～トピックス～

### ◎ 神奈川陸上競技協会競歩審判員研修会を開催

8月6日 中央大学附属横浜中学校・高等学校に於いて石井智也（JRWJ）氏を講師に神奈川陸上競技協会競歩審判員研修会が開催されました。



### ◎ 第16回総務委員会女性部講習会ならびに総会を開催

11月6日総務委員会女性部の第16回講習会として「第56回東京女子陸上競技大会」を視察し、東京陸上競技協会の山崎壽美子氏・野末雅文氏を講師に「女性審判員の意識・技術向上」について講演をいただきました。



## ◎ 郡市陸協だより (第4回)

### 逗子市陸上競技協会

当協会は、1957年に横須賀市陸上競技協会の支部として発足いたしました。その後、1984年に神奈川陸上競技協会及び横須賀市陸上競技協会の指導のもと、逗子市陸上競技協会として独立し、現在に至っています。

現在50余名の会員により、春の市民陸上競技選手権、夏の市民大会のほか、開催回数500回を超えた海岸を走る会、元旦マラソン大会、市内一周駅伝競走大会等、伝統ある多くの大会を実施しています。また、小学校4～6年生を対象にジュニア陸上競技教室や児童駅伝大会も開催し、競技者の育成及び底辺拡大を図っています。近年では、市内の中・高生が全中、インターハイ、都道府県対抗女子駅伝等の全国大会に出場するなど、当陸協の活動の成果が現れてきています。



2014年には、市内にある池子米軍家族住宅地区の一部土地、約40haが日米共同使用となり、共同使用地内に池子の森自然公園が開園しました。

公園内の400mトラックで開催したオープニングイベントでは、元五輪400mH選手の為末大さんを招待し、大いに盛り上がりました。この400mトラックは、これまで米軍関係者がほぼ専用で使用していた施設でしたが、開園以降は、団体の予約使用(有料)または個人の自由使用(無料)ができる運動施設となりトラック競技の試合・練習環境が大きく前進し、喜ばしい限りです。

2017年に当陸協は創立60周年を迎えます。今後、当陸協を発展させるべく、人材の確保と育成、競技運営のさらなる充実と向上を図っていきたくと考えています。

神奈川陸協関係者の皆様には、今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

(文責 総務部長 鷲原)

※次回の「郡市陸協だより」は三浦市陸上競技協会にお願いします。

## ◎ 一般財団法人神奈川陸上競技協会 創立80周年記念誌の販売

本協会は「一般財団法人神奈川陸上競技協会創立80周年記念誌」を発刊いたしました。購入を希望する方は、下記の要領で申し込んでください。

1. 名称 「一般財団法人神奈川陸上競技協会創立80周年記念誌」
2. 価格 1冊 5,000円(内訳:本体4,000円+消費税320円+送料680円)
3. 申込方法
  - ① 申込用紙に必要事項を記入してください。  
(申込用紙は神奈川陸上競技協会ホームページより印刷してください。)
  - ② 申込用紙を「神奈川陸上競技協会 事務局」へ郵送してください。
  - ③ 郵送先 : 「神奈川陸上競技協会 事務局」  
〒231-0012 横浜市中区相生町1-18 光南ビル5階B号室  
電話 045-210-9660
  - ④ 料金の支払方法 : 振込  
振込先口座 : 横浜銀行 平塚支店 店番号641  
普通口座 口座番号 6173074  
一般財団法人神奈川陸上競技協会  
ザイ) カナガワリクジョウキョウギキョウカイ
  - ⑤ 振込手数料は、申込者がご負担ください。
  - ⑥ 必ず「振込確認書」のコピーを申込用紙と一緒に郵送してください。  
「振込確認書」同封を確認後「記念誌」を送付します。
  - ⑦ 「記念誌」は、神奈川陸上競技協会 事務局から送付します。

#### 問い合わせ先

神奈川陸上競技協会 専務理事 吉田 秀志  
電話 045-210-9660  
FAX 045-210-9667